

2025 年 10 月 5 日（日）第二礼拝「姦淫の女とイエス様」ヨハネ 8 章 1～11 節

イエス様の説教の場に、姦淫の場で捕らえられた女性が連れて来られ、真ん中に立たされました。仮庵の祭りの時期でした。この出来事を通して、律法と福音を見ることができます。

第一番目、律法は自分を照らす鏡の役割をします。私たちは律法を見て、鏡に映しだされた自分の汚れを知り、それを水で洗います。水とは恵みです。しかし、律法学者とパリサイ人は、律法をもって自分の汚れを見るのではなく、ひとりの女性を罪に定めて、イエス様を告発しようとしてしました。彼らは、姦淫をした男性を逃し、この女性だけを捕まえました。もし、姦淫の罪で女性を石で打つようにイエス様が指示するなら、ローマ法に違反するし、逆にイエス様がその罪を赦すなら、モーセ法に違反します。どちらにしてもイエス様を告発できたのです。彼らが問い続ける間、イエス様は地面に書いておられました。このイエス様の指は、ダニエル書に出てくる神の指です。バビロンの最後の王ベルシャツアルに「メネ、メネ、テケル、ウ・パルシン」と罪を宣告した神の指です(ダニエル 5 章)。イエス様の書かれるのを見た律法学者たちは、自分の罪を知り、年長者から若者まで去って行きました。いくら律法を研究して守っても、義人はひとりもいません。皆が罪を犯したので神の栄光に至る者はいないのです。律法とは自分の罪を知り、赦しの恵みが必要だと悟らせるものです。

第二番目、福音のイエス・キリストです。イエス様が「罪に定める者はなかったのですか。」と聞かれた時、女性は「だれもいません。」と答えました。すると、イエス様は「わたしもあなたを罪に定めない。」と言われました。神様は、シナイ山で律法と幕屋を啓示されました。律法の完成は幕屋です。この幕屋とはイエス・キリストです。律法学者たちは皆、自分の罪を知って去って行き、イエス様と女性だけが残されました。律法によって罪が明らかにされた女性は、石で打たれて死ぬ運命でしたが、イエス様が彼女の代わりに罪となってくださり、その罪を赦されました。罪に定められた時、イエス様とともにいるなら救われますが、イエス様から離れるなら滅びに至るのです。

第三番目、「行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。」これは仮庵の祭りの時の教えでした。イスラエルの民は荒野の四十年間、仮庵(テント)で生活をしました。神様は、昼は雲の柱、夜は火の柱で導かれ、天からマナを降らせ、岩から水を出されてイスラエルの民を守られました。神様がともにおられるなら、私たちは守られ、罪と戦って勝利するように助けてくださいます。私たちは失敗することもあります。神様は七の七十倍まで罪を赦してください。仮庵の最終日には水を汲みます。この時に神様は私たちにいのちの水を運んでくださり、光を灯してください。水と光は聖霊様です。信じる人にはお腹からいのちの水、つまり、愛、喜び、平安が湧き上がるようにしてください。私たちが罪に定められることなく、また罪を犯すことなく生きるように助けてくださるのです。この世の人々は飢え乾いて罪の場所に引き寄せられます。しかし、主は御霊によって私たちの渇きを満たされ、心の中に光を灯してください。これが仮庵の祭りの意味です。アーメン！